

田んぼだより

平成 17 年

7月 号

Vol. 28

次回の田んぼ便りは
8月発行予定!

暑気日ごとに加わり、

田んぼの水もすぐに減

つてしまふ今日この頃、

田んぼでは田んぼの水管

理に追われる毎日です。

水管理のため田んぼ

のあぜを歩くと、今年

孵化した小さなカエル

達が次々と水中に飛び

込み、頭上ではトンビ

が餌を物色しながら、

悠々と旋回しています。



〔生き物調査〕

6月、宮城県内でも

一部の地域で鯉ヘルペ

スが発見されました。

そのため、大事をとつ

て今年も鯉の放流を見

送ることとなりました。

その代わりに、田んぼ

の生き物調査をするこ

とにしました。

例年、生き物調査を

行うのは7月に入つて

からなので、さすがに

生き物が少なく感じら

れましたが、メダカや

おたまじやくし、タニ

シ、カイエビ、カブト
エビ、田シジミなど、
色々な種類の生き物を
見ることができました。

私たちの田んぼでは、

稲の一本一本がたくさ

ん光を浴びれるよう、

植え付け本数を少なく

しています。そのため、

私たちの田んぼは他の

田んぼより貧弱に見え

ます。けれども、田ん

ぼの中ではたくさんの

生き物たちであふれ、

それはそれはにぎやか

な田んぼなのです。



嫁日記

娘のさくらを連れて田んぼの生き物調査をしていた時のこと。プラスチック容器に貝えびやタニシを田んぼの水と一緒に入れていたら、目を離した際にその水をさくらが飲んでしまいました。

「きゃー、お腹痛い痛いになるよー」といいながら、

容器を取り上げつつ思ったことは、慣行田でなくて良かったということでした。

もし、農薬散布した田んぼの水を、自分の子供が飲んだとしたら。そう思うと血の気が引く思いです。うちの田んぼなら、水を飲んでも土を食べても大丈夫。そんな気持ちでこれからも田んぼをやっていきたいです。

米 曆 ~こめごよみ~

6月17日 田んぼの生き物調査をしました。

6月29日 大貫保育園の子供達と一緒に、田んぼの生き物調査をしました。

雨がほとんど降らず、とても暑くなったり急に寒くなったりという天候が続いたため、稲の生育は例年よりやや遅れぎみです。

絵と文 / 小野寺ひかる